

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	線形代数1（Linear Algebra1）		
ナンバリングコード	L11101	大分類／難易度 科目分野	建築学科 専門科目／基礎レベル 工学基礎
単位数	2	配当学年／開講期	1 年／前期・後期
必修・選択区分	選択		
	※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	L110102	クラス名	前期
担当教員名	永田 裕作		
履修上の注意、 履修条件	基礎学力講座・数学を修得していることが履修条件です（留学生にはこの条件がありません）。講義中に例題や課題を解いてもらいますので、講義に出席することが大切です。座席は指定しますが、教員とコミュニケーションが取れるように、教室の前の方に着席してください。理由のない欠席・遅刻・途中退室は厳禁です。正当な理由で欠席した場合は補講を行います。基礎クラスと一般クラスがあります（違いについては「その他」で確認してください）。		
教科書	教科書は「履修学生用テキスト 線形代数1」を使います。必ず購入してください。また、下記の2冊を参考図書として図書館に置きます。		
参考文献及び指定図書	「カラーテキスト線形代数」 大原 仁 著、二宮 正夫 監修 講談社 「すぐわかる線形代数」 石村園子 著 東京図書		
関連科目	基礎学力講座・数学、微分積分1、微分積分2、線形代数2、力学リテラシー		

○基本情報		
授業の目的	様々な物理現象を数式で表すためには、線形代数の知識が必要となります。また工業製品を設計し、製品とするには、物理現象を理解することはもちろんのこと、数式により表現された物理現象をもとに、必要となる数値を正しく計算できることが必要です。このため、線形代数は工学部の学生の皆さんが学ぶ各専門科目の基礎となる重要な知識、技術のひとつです。 本講義の目的は、工学部ディプロマ・ポリシーの「各学科の専門分野における専門知識とその応用力を身につけていること」に関連し、今後の専門科目を学ぶ上で、また卒業後に工業製品を正しく間違いなく設計するために必要となる線形代数学の基礎知識を正しく理解し、その計算方法を身につけることです。また、線形代数学は、今日の社会において幅広い分野で必要とされる数理データサイエンス（その他※2参照）関連の基礎科目としても重要です。	
授業の概要	[講義内容の概要] 高校で学ぶ「ベクトル」の復習から始め、線形代数学の初歩である「行列」の性質や役割について学修します。具体的には、「行列の定義と演算」、「連立1次方程式の解法」、「逆行列の定義と計算法」、「行列式の定義と計算法」についての理解と計算能力を修得します。 [講義方法の概要] 履修学生用テキストに沿って学修していきます。例題を事前に解き、講義に臨んでください。講義開始直後に前回までの講義で扱った内容についての「課題」を解答・提出してもらいます。前回の講義終了後に出題した「宿題」については講義開始前までの指定された時間帯に提出してください（詳細については「その他」で確認してください）。課題と宿題は成績評価に反映されます。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「複数クラス方式」
	(3) アクティブ・ラーニング	「該当なし」
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目	該当しない	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	問題を自分で解くことができる。	30点	10点	
【知識・理解】	対象にする計算式や計算結果の意味を理解できる。 計算方法を適切な資料から間違いなく見出すことができる。	10点	5点	
【技能・表現・コミュニケーション】	計算方法等について、学生同士で教え合うことができる。	15点	5点	
【思考・判断・創造】	問題を解く思考力を身に付ける。 計算結果が妥当であると判断できる力を身に付ける。	15点	10点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
「学修しておかなければならない範囲が何であるかを知り、その範囲にある問題について、自分の力で間違いのない答が出せること」と「大学受験の数学で要求されたように公式を暗記するのではなく、適切な計算方法を資料から見出し、それを活用して答を導き出せるようになること」の2つを到達目標にします。 提出物の30点は、講義中に取り組む「課題(15点満点)」と家庭学習として取り組む「宿題(15点満点)」からなります。テストの70点は、「期末試験(70点満点)」です。特に、中間試験は行いません。 「課題」、「宿題」、「期末試験」はいずれも一般クラス・基礎クラスで共通の問題です。 「課題」、「宿題」については、提出後に解答を周知しますので、間違えた問題は必ず解きなおしてください。解らない問題は速やかに講義担当教員がアクティブラーニング室（その他※1参照）まで質問に行くようにして下さい。

○その他
[履修学生用テキストについて] 履修学生用テキストは主に、次の4つの内容からなります。 （基本） 必ず修得すること （例題） 資料、電卓、友人のサポートなども利用して、自分で解答できるようになること （発展問題）自分で解けない場合は解き方の説明を聞いて理解すること （余力課題）そのことが将来出てきたときに、何のことか分かるようになること 大学初年度で学ぶ線形代数学の必須の内容は、（基本）と（例題）の部分に掲載してありますので、この部分を必ず修得するように学修して下さい。 [基礎クラスと一般クラスの違い] 基礎クラスでは、履修学生用テキストの（基本）、（例題）、（発展問題）を中心に学修します。一般クラスでは、これらに加え（余力課題）も学修します。期末試験はどちらのクラスも共通の問題で、（基本）と（例題）を中心に出题します。 [講義方法の補足] 例題、課題、宿題は資料や電卓等を活用し、自分の力で解き、検算し、正しい計算ができるようになることが重要です。 公式を暗記することはお勧めしません。計算方法を忘れたときは、見て分るような手引き書を自分で作成し、講義後も使用できるようにすることをお勧めします。 課題は、講義中にPC等を用いてweb上で解答・提出してもらいます。web上で提出できない場合は、講義担当教員の指示に従ってください。宿題は、講義終了後にweb上で出題され、次回講義までの指定された時間帯にweb上で解答・提出してもらいます。web上で提出できない場合は、速やかに講義担当教員に相談してください。 [講義を欠席した場合] 15回の講義では、順を追って学ぶべき部分を学修していきますので、講義を欠席した場合は必ず補講を受けてください。 [期末試験に関する事前予告] 課題・宿題を解く際は関数電卓の使用を認めていますが、期末試験では使用できません。これは問題を直接計算できる機能を有する関数電卓が販売されており、そのようなものとそうで無いものの区別がつかないためです。このため、定期試験の際に電卓を使用したい場合は、四則演算およびルートの計算ができる程度の通常の電卓を準備しておいてください。
※1「アクティブラーニング室」は4号館の1階にあります。学習に関する利用であれば、個人やグループを問わず自由に利用することが出来ます。特に、国語と数学の教員が待機していますので、何か困ったことがあれば質問・相談に行きましょう。
※2「数理データサイエンス」とは、適切な手法でデータを収集し、データの分析を行い、分析結果から得られた解釈を活用するという科学であり、今日の社会で広く必要とされる技能です。

